

敦賀南エリアパトロール隊（福井県）

皆さま、こんにちは。敦賀南エリアパトロール隊の宮原です。私は散髪屋として働く傍ら、敦賀南エリアパトロール隊の隊長として、地域の安全・安心に少しでも貢献できればと、日々活動しています。今日はこのような席で私たちの活動について発表する機会をいただき、大変嬉しく思います。今日はよろしく願いします。それでは早速始めてさせていただきます。



福井県敦賀市の紹介



敦賀市は福井県のほぼ中央に位置し、日本海の敦賀湾に面しており、古くから鉄道と港のまちとして栄えています。
人口約6万4千人
面積約251km²

まず、私たちが活動しております、福井県敦賀市についてご紹介させていただきます。

敦賀市は、福井県のほぼ中央に位置し、日本海側に面する港町です。古くから『みなとまち敦賀』として知られ、大陸文化の玄関口として栄えてきました。再来年となる2024年春には、北陸新幹線の敦賀開業も予定されており、人の往来や交通の流れの増加が期待されています。

敦賀南エリアパトロール隊

設立の理由と目的

凶悪、悪質な犯罪の増加（平成15年頃～）
地域住民による自主防犯活動の必要性

平成16年3月に結成

「地域の安全・安心は地域で守ろう!!」
をスローガンに活動を開始

敦賀南エリアパトロール隊

- 活動地域は、敦賀市内の南部の栗野地区・愛発地区・中郷地区を併せたエリア
- 人口約3万1千人
- 人口、面積とも敦賀市全体の約半分を占める



次に、敦賀南エリアパトロール隊の説明に移らせていただきます。敦賀南エリアパトロール隊は、刑法犯認知件数がピーク期を迎えていた頃、地域住民による地域に根差した自主防犯活動の機運が高まり、平成16年3月に有志21名で結成されました。現在は、さまざまな職業を持つ有志隊員約20名が、幅広い防犯広報活動を行っています。隊のスローガンは結成当初から変わらず、『地域の安全・安心は地域で守ろう』です。

活動地域は敦賀市の南部、栗野地区・愛発地区・中郷地区で構成されています。このエリアには数多くの小中学校や量販店、金融機関がありますので、活動を通じて多くの人に触れ合える喜びを感じているところです。

活動内容

- ①鍵かけ広報活動
- ②特殊詐欺被害防止活動
- ③防犯パトロール活動
- ④その他
 - ・万引き防止広報活動
 - ・レディースガードリーダー育成活動
(犯罪被害防止の知識を有する企業の相談担当者)
 - ・研修活動



①鍵かけ広報活動

6と9のつく日をロックの日と定め、駅や量販店などの駐輪場で
自転車の防犯診断
鍵かけ広報
を実施



私たちの活動は、1、鍵掛け広報活動、2、特殊詐欺被害防止活動、3、防犯パトロール活動、4、万引防止広報活動や、レディースガードリーダー育成活動といった、その他の活動に分けられます。なお、レディースガードリーダーとは、痴漢など女性が被害に遭いやすい犯罪に関する犯罪防止の知識を有する、企業の相談担当者のことです。犯罪被害から女性を守るため、各企業等から推薦をいただいた女性に対し、防犯知識や護身術等の講習を行うことで、防犯意識の向上を図る福井県警察独自の施策になります。それでは順番に説明させていただきます。

まずは、鍵掛け広報活動です。この活動は平成22年から行っています。当時、敦賀警察署管内で自転車盗難被害が多発しており、敦賀南エリアパトロール隊としても、被害を減らすために何か貢献できないだろうかと考え、被害自転車について調べてみたところ、なんと80パーセントの自転車が無施錠だったことが分かりました。そこで、自転車利用者1人1人が自転車の鍵をしっかりと掛けてくれば、盗難被害を大きく減らすことができるだろうという考えから、特に被害の多かったJR敦賀駅駐輪場にて、自転車の防犯診断や、鍵掛け広報活動が始まりました。

①鍵かけ広報活動



①鍵かけ広報活動



いまだに自転車の盗難被害は数多く、無施錠ですので、毎年6月9日をロックの日と定めて、活動を強化しています。月に2回ほど6と9の付く日に、駅や量販店の駐輪場において、ご覧のスライドのような形で鍵掛け広報活動を行っています。

これが防犯診断に使う防犯診断票になります。無施錠自転車を見つけた際には、盗難被害に遭いませんようにと願いを込めて、この防犯診断票にある『自転車には必ず鍵を掛けましょう』欄にチェックした上で、ハンドルなどの気付きやすい箇所に取り付けて、鍵掛けの啓発をします。



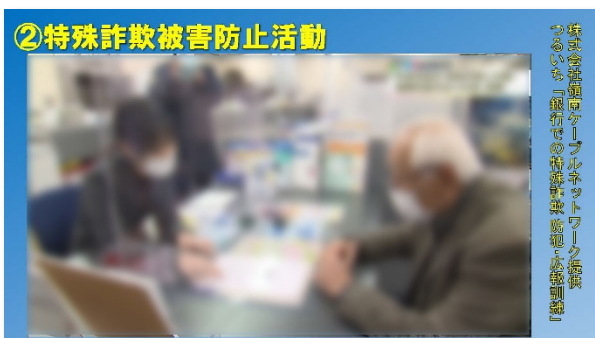
次は、特殊詐欺被害防止活動です。年金支給日に合わせて、市内の金融機関において、利用客に最新手口を盛り込んだチラシを配布して、被害防止広報活動を行っています。特殊詐欺は年々手口が巧妙になってきており、さらに高齢者が被害に遭うケースが多く、新聞報道によると、令和3年の福井県内の被害額は8000万円弱でした。

活動ではこのようなチラシを配布しています。このチラシはチェックシート形式になっていて、1つでも当てはまれば詐欺だとして、警察へ相談するよう促すように書かれています。福井県内でも確認された代表的な手口を紹介しています。その上で警察と連携して、最新の手口について学び、それに応じた活動ができるよう工夫しています。



また、電子マネーを購入させる架空請求詐欺が頻発したときには、市内のコンビニエンスストアに啓発チラシを配布し、実際にレジで対応する店員さんのチェック機能を高めて、被害を水際で食い止める活動を実施しました。こちらがその啓発チラシです。こちらもチェック形式になっていて、店員さんに、電子マネーを購入するお客さんが特殊詐欺の被害に遭っているかどうかを見極める、1つの判断材料にしてもらっています。

他に、金融機関とタイアップして、隊員自らが犯人にだまされて口座からお金を引き出そうとする被害者に扮し、窓口で対応する職員の方の声掛け能力向上を目的とした訓練を行いました。訓練はまさに真剣そのもの。隊員は何日もかけてせりふを覚え、時にはアドリブを交えながら、臨場感あふれる被害者役を演じ、金融機関の方からも、いざというときに非常に有意義な訓練だったと大好評でした。



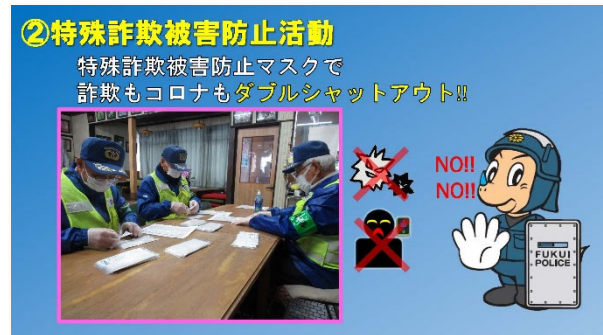
こちらがその訓練の映像になります。ご覧ください。

【動画】

1回目の訓練は、東京にいる息子から、急にまとまったお金が必要だと言われた男性が、窓口で高額のお金を引き出そうとしているとの想定で行われました。行員は引き出す理由などをよく聞いた上で、詐欺被害防止のための対応を取り組みました。

「そういったケースは典型的なオレオレ詐欺のパターンですから、そちらのお話を伺っている限りでは、非常にそういった疑いが強いと思います。そういうことなので、警察の方にも来ていただいて、一緒にお話を聞いていただくとか、そういった形でお客さまのお金をお守りしたいと思いますので、一度確認いただけたらと思うんですが。」

2回目の訓練は、携帯電話で通話しながらATMを操作する男性が還付金詐欺に遭っている疑いがあるとの想定で行われ、防止策を確認しました。敦賀署管内における今年の特種詐欺の発見件数は、12月末時点で3件あり、全て架空請求詐欺で、およそ85万円の被害が出ています。敦賀署の寺島裕文生活安全庶務係長は、「新型コロナの流行に伴う給付金を狙った特殊詐欺など、新しい手口が出てきている。警察も情報提供をしていくので、アンテナを高くして、気を付けてほしい」と話していました。



このように、訓練の様子は地元のテレビ局でも放映され、番組視聴者にも特殊詐欺被害防止を訴えました。さらに、地元のラジオ局の協力を得て、ラジオでも特殊詐欺被害防止を訴えて、市内全域に防犯情報をお届けしました。まさに、防犯の願いを電波に込めてです。

加えて、新型コロナウイルスが流行し、マスクが品薄になっていた頃には、隊員が『感染症も詐欺もシャットアウト!』と書かれたシールを貼り付けたマスクを作成して、配布しました。



こちらがそのマスクになります。お気付きの方もおられるかもしれませんが、この晴れ舞台でアピールできればと思い、今日、私も実際に着けてきております。詐欺もコロナもダブルシャットアウトです。

続いて、防犯パトロール活動の説明をさせていただきます。写真は、年末パトロール出発式の様子です。年の瀬だからといって犯罪がなくなるわけではありません。隙間のない防犯のため、出発式には隊員の士気を高め、街頭パトロールを行いました。合言葉は『いざ見回り』です。



また子供たちが登下校する時間に合わせて、見守り活動にも力を入れており、時には子供たちに付き添い、時には交通量の多い交差点に立ち、時には車でパトロールをするなど、死角のない見守り活動を展開しています。

見守り活動をする中で、子供たちの楽しそうな笑顔と触れ合うことで、こちらにも元気をもらえることがあります。全ては、今日のたがいま、明日の行ってきますを守るため。これからも活動を続けてまいります。



次に、万引防止広報活動です。この活動については、隊員がインターネットサイトを利用して、万引防止のオリジナルピクトグラムを作り、市内のドラッグストアに進呈することで、言葉にとらわれない万引防止広報活動を行ったものになります。オリジナルピクトグラムはこのような物です。

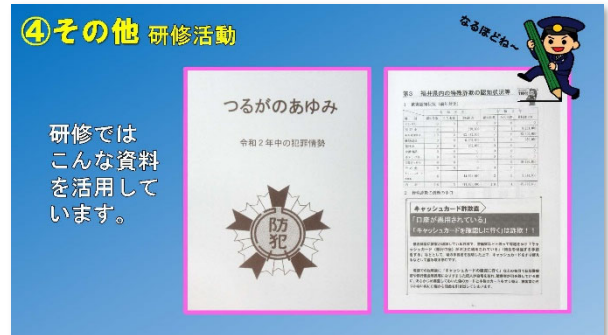
加えて、ドラッグストアにおいて、高額な化粧品等が万引被害に遭う事件が多発したときには、日本語で万引防止を呼び掛ける音声ポップを配布しました。これは人感センサー式になっていて、人が近くを通ると、自動的に万引防止を呼び掛ける音声が出るものです。絶え間ない防犯広報ができました。敦賀警察署によると、万引被害は近年大きく減少しているということです。私たちも少なからず貢献できていると自負しております。



次は、レディースガードリーダー育成活動です。通常、防犯知識や護身術等の講習については、その道のプロである警察官が行うところではありますが、時には一般の市民である私たちが講師を務めさせ

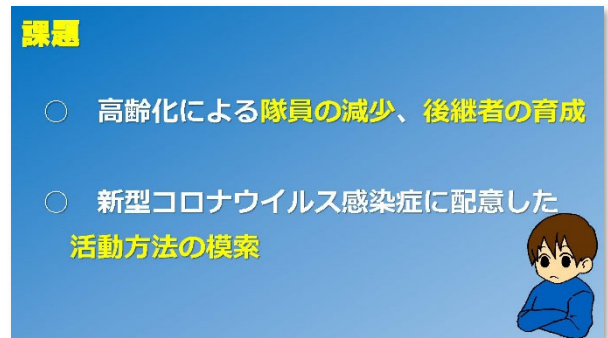
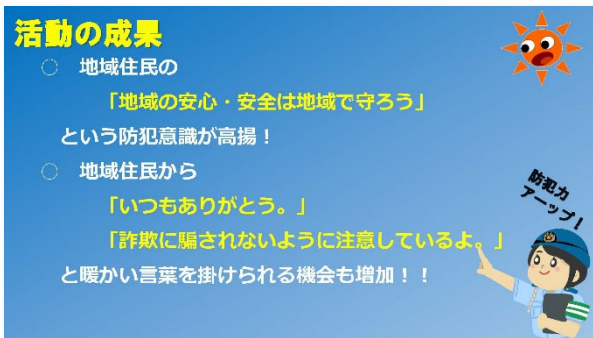
ていただくことで、レディースガードリーダーとの間で『地域の安全・安心は地域で守る』という仲間意識の構築につながるのではないかと考えております。

こちらは護身術の講習の様子です。参加された皆さんは、警察官の丁寧なお手本を見ながら、慣れない動きで四苦八苦しながらも、真剣に取り組んでいました。



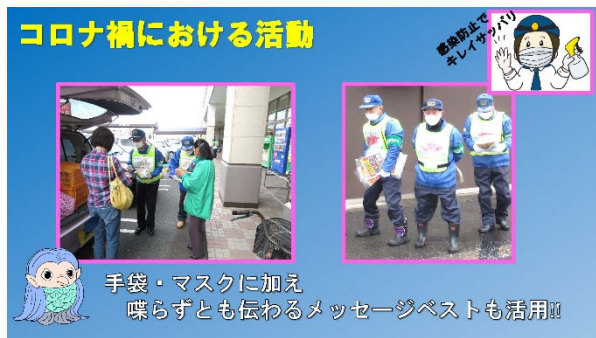
最後に研修活動です。研修活動では、福井県内や敦賀警察署管内の防犯情勢や、特殊詐欺の最新の手口等を織り込んだ『つるがのあゆみ』を発刊し、隊員のスキルアップに役立てています。現在は新型コロナウイルス拡大防止に配慮し、実施できておりませんが、各隊員の懇親を図る上で重要な機会です。

こちらは令和3年版『つるがのあゆみ』になります。このように、防犯情勢や特殊詐欺の手口等が掲載されています。



これらの活動を継続することにより、地域住民とのつながりが生まれて、地域の安全・安心は地域で守ろうという機運が高まり、地域住民から、いつもありがとう、詐欺にだまされないように注意しているよと、温かい言葉を掛けられる機会が増えることで、着実に成果が表れていると感じているところで

す。ただ、私たちは直面している課題が2つあります。1つは、高齢化による隊員の減少と後継者の育成です。そこで、活気あふれる敦賀南エリアパトロール隊を継承するために、新聞やテレビ、ラジオ等の各種媒体、Twitter等のSNSを通じて、隊の活動を広報して認知度を上げ、若い世代に積極的に声を掛けるなどの勧誘活動を行うことで、隊員を増やそうと努力しています。2つ目は、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した活動方法の模索です。



スライドにありますように、新型コロナウイルス拡大防止対策のため、手袋・マスクに加え、胸元と背中に防犯メッセージを書いたベストを着て、広報活動をするようになりました。こういう物です。新型コロナウイルスのため活動に制限がかかる中、ウィズコロナの時代に対応した、より効果的な活動方法を現在も模索中です。

このように、私たち敦賀南エリアパトロール隊は、『地域の安全・安心は地域で守ろう』を合言葉に、各種防犯広報活動に精力的に取り組んでいます。これからも地域住民に対し、犯罪被害防止を訴えることで地域の防犯意識向上を図り、地域における防犯の輪を大きく広げることができるよう努めてまいります。ご清聴ありがとうございました。

講評

山本 北陸大学の山本でございます。発表をありがとうございました。最初に、全体的な感想なんですけれども、すごくいろんな活動をされていて、活動の幅が広いというか、いろんなことをやっていらっしゃる。1つ1つの取り組みも工夫をいろいろされていて、かなり大変なのかなと思うんですけども、年間何日ぐらい活動をされていていらっしゃるんですか。

発表者 鍵掛け隊は、毎月2回ほどさせてもらっています。振り込み詐欺の啓発活動は、年金支給日に合わせて、銀行なり、JAのATMの所に立って、啓発活動をしています。

山本 二十何人の方が、分かれているんですね。

発表者 順繰りで回している感じなんですけど。

山本 じゃあ、そんなに防犯活動が忙しいということでもないですか。

発表者 そうなんです。

山本 普通にずっとやってこられているんですか。

発表者 まず、仕事が第一なので、強制はしていませんので、出られるときに出来る方が出ていただくという形でやってもらっています。

山本 ありがとうございます。隊長さんが床屋さんをやられているとおっしゃっていましたが、今の隊員の方々のご職業って、自営業と会社員の比率って、どれくらいですか。あるいは、もう引退されている方もいらっしゃると思うんですけど、会社員をやっている、この防犯パトロール隊に入っていくのは、なかなか現役世代では難しいのかなと思うんですけど、何割ぐらいいらっしゃいますか。

発表者 8割ぐらいが、いったん退いた方がほとんどではないかな。

山本 引退された方ですね。

発表者 はい。その8割のほとんどの方が、再雇用なり、アルバイトなり。お仕事を何もしていない方はいらっしゃらないと思います。

山本 なるほど。ありがとうございます。こういう防犯パトロールというか、地域防犯の活動って、皆さんおっしゃるけど、高齢化が進んでいるということと、なかなか会に入っていないところなんですけど、やっぱり現役世代が仕事と両立をしながらやるのはちょっと難しく、日にちが合わないとか、余裕がないわけじゃ決してないと思うんですけども。一度引退された後に、地域に対して貢献をしていく形で入っていくのがいいのかなと思うんですね。

少し個別のことでお伺いしたいんですけど、自転車の盗難について、無施錠の自転車にパンフレットみたいな物を挟んでいく。あれはすごくいいアイデアだと思うんですけども、そんなに無施錠っていまだに多いんですか。

発表者 そうですね。見回ると、やはり鍵を掛けていない自転車、下手したらバイクなど、よく見掛けますね。そのときはああいう防犯診断票を掛けて、啓発しているんですけども。

山本 なるほど。例えば、量販店の所でそんな活動をされているとおっしゃっていましたが、量販店の防犯責任者の方は、こういったことにどんなふうに協力をしてもらっていますか。

発表者 開始する前には、もちろん店長さんなりにご挨拶して、のぼり旗などを設置しますので、許可を取って見回ります。手が空いたらちらちら見には来てくれているんですけども、私たちがメインでチラシを配るとか、防犯診断票を掛けるとか、チェックをしています。最近、自転車を利用される方が少ないんですけども、やはり私たちは田舎の所なので、車でみえる方もいらっしゃるんです。そうすると、自転車限定ではなく言葉を換えて、車には鍵を掛けてねとか、もちろん自宅にも鍵を掛けてねというように、ついぞと言ってはあれなんですけども、自転車ばかりではなく、他の所にも鍵を掛けてねと声を掛けているんですけども。

山本 かなり企業と連携をして、いろいろな活動をやっているのが特徴だと思うんですね。コンビニですとか、今の量販店もそうですけど、金融機関とか。地域の防犯を考えていく上で1つ大事になってくるのが、地域の人たちだけで地域を守るのは難しく、そこには企業とか、いろいろな組織とか団体が関わっているわけで、企業との連携ってすごく大事だと思うんですよ。そういうことを地域のボランティアでやっていらっしゃるの、私はとてもいいと思うんですね。

こういう活動していく中で、企業とか金融機関にしろ、コンビニにしろ、ドラッグストアにしろ、やっていく中で、本当は企業側にこういう気持ちというか、もっと防犯意識を高めてくださいとか、何か企業側に対して要望の気持ちはできていたりしますか。

発表者 先ほどもちらっとお話ししたように、手が空いているとちらっと手伝いとか、見に来てくれたり、あと、振り込み詐欺のときでも、銀行職員の方が手伝って、一緒に配布物を配っていただいたり、そういうのを手伝っていただけると、すごいありがたいなと思います。当然、お店が開いているときにしていることなので、お仕事をしながら、そっちもこっちもという感じにはなかなかいけないんですけど、そうやって自主的に出ていただけることは、すごいありがたいなと思っています。

山本 本当はこういった企業と連携していく中で、私はもう少し企業側も主体的な取り組みとか、だって当事者なんですから、当事者として参加してもらえるように、何か働き掛けられるやり方ってあるといいなと思うんですね。つまり、例えば自転車にしても、公共の自転車置き場なら管理責任は行政になりますけれども、量販店だったら管理責任はそのお店にあるわけですね。無施錠が原因の1つではあるんですけど、自転車置き場の場所とか、周りの環境からの見えにくさとか、盗まれやすい自転車置き場ってあるような気がするんです。それを改善できるのはお店側だと思うんですね。

同じように、特殊詐欺に使われやすいATMもあると思うんですね。九州の福岡県で別の筑波大学の先生が調査されたので、やっぱりあるんですよ。使われやすいATM。それは、金融機関でもなく、スーパーでもなく、要はショッピングセンターの片隅にあったり、あるいは敷地外にあったり、そういう所が取られやすいんです。あとは、万引なども私は前にちらっと聞いたんですけど、万引されやすいお店と、されにくいお店がある。一番違うのはスーパーですけども、スーパーでもその違いって、お店の主体的な関わりとといいますか、当事者意識と大きく関わっているような気がするんです。

そう考えると、防犯ボランティアの人が頑張って、頑張ってくれてありがとうと言うだけじゃなくて、一緒になって気付いたところを意見交換し合ったり、お店側でこういうところを改善していかないと、本当の意味での防犯につながっていかないなみたいな。そういった対話がされていくと、さらに良くなるなと思ったんですね。もし、そんな糸口が1つでもあれば、今後、何かそういったことを目指していただいてもいいかと思うし、もし今の活動の中でも何か気付いたことがあったら、ちょっと振り返って思うんですけど、今の私ので何かちょっと気付いたことがおありですか。すごくうなずいていらっしやっただけ。

発表者 本当だなと。お店に出向いて活動する機会が多いんですけど、先生が言われたように、一緒に活動するというのがすごくいいことだなと思いますし、手伝ってとは、こちらからは言えないんですけども、自主的に手伝っていただけると本当にありがたいなと思いますので、これからはちょっと工夫して頑張ります。

山本 そういう意味では企業の側に地域防犯活動の連携をお願いしていくことも必要なのかなと思います。非常に幅広い活動で、しかもピンポイントでいろいろ重要なことをされている活動だと思います。これからも頑張っていただければと思います。どうもありがとうございました。

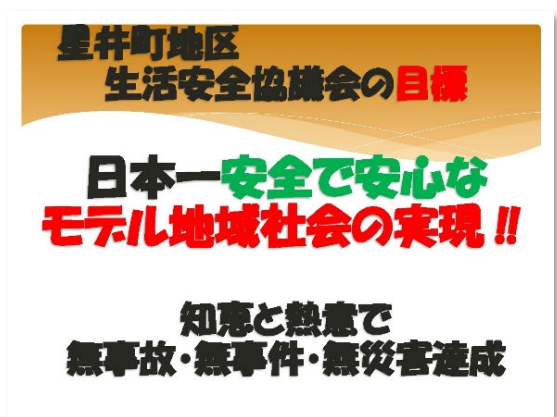
星井町地区生活安全協議会（富山県）

星井町地区生活安全協議会の会長をしています濱谷でございます。緊張しております。よろしくお願いいたします。



当協議会は、星井町地区の防犯組合連合会として昭和 35 年 3 月に発足しました。団体の概要については、お手元のパンフレットを見ていただきたいのですが、平成 16 年に発足のスターパトロール隊を中心に活動しております。星井町の『星』と、スターのように地区を明るく照らす存在になりたいという思いを込めてこのように名付けて、18 年が経過しました。写真に写っているのは、今年 4 月、定期総会時の星井町地区センター前での写真です。総員 56 名中、参加者は 21 名、青パト隊 8 台中 5 台が参加。こういう総会があっても 4 割ぐらいの参加であります。他の人は何をしているかということ、参加しなくても自分の町内の防犯活動を、仕事、あるいは商売をしながらやっているということでございますので、これはボランティアの現状であると思っております。服装はまちまちで、5 種類ございます。最初に発足時の帽子。平成 17 年度教育委員会の助成、3 年間で終わりましたが、こども見守り隊のベスト。平成 20 年、星井町・五番町小学校が中央小学校に統合され、北隊・南隊を結成した際の現在のベスト。平成 21 年度の警察庁地域安全安心ステーション推進事業での貸与ベスト。平成 23 年度、県指定の安全な街づくり推進協議会が発足してからの名前入りのベスト。5 種類ございまして、これを廃しないでのおの着ているわけでございます。歴史を感じさせます。

次に、星井町地区は日本の中心部、富山県の中心部、富山市の中心部に位置します。日米戦争では、昭和 20 年 7 月に模擬原子爆弾のカボチャ、パンプキン爆弾とありますが、これが富山駅北側に 4 発落とされ、さらに昭和 20 年 8 月 1 日、アメリカの B29 の爆撃を受けたわけですが、その中心点から 500 メートルほど南側に位置しております。平成 27 年の新幹線の開業で、東京から 2 時間で、物心とも中心部であります。



昭和 20 年のアメリカの B29、170 機による大空襲で富山市全域は何もかもなくなり、県庁・電気ビル・大和百貨店・NHK の電波鉄塔 2 本だけがぽつんと残るような状態になりましてから 77 年たって、毎日、目に見えるような復活を成し遂げてまいりまして、現在、図にあるように非常に立派な文化施設を有するようになりました。しかし、県立の近代美術館、ハローワークは駅の北側に移転し、市の教育文化会館はなくなり、星井町小学校も児童が少なくなって統合されてなくなり、個人住宅は古く、戦後からの建て替え時期となって、マンションが建ち始めています。公園が多く、コンビニはありません。人口のドーナツ化現象により、富山市の中心部にありながら、田舎のような地区であります。ただ、今はなくなっていますが、過去には県内有数の暴力団の事務所もあつたり、毎年 6 月には地域内の日枝神社で、露天商が 1000 店も軒を連ねる県内最大のお祭りも開催されるなど、県内でもたびたび注目を集める地区であります。

県知事、県警本部長の方針を、富山市星井町地区がモデル地区として実現するという心意気で、目標は 3 なし達成で、日本一安心で安全なモデル地区をつくろうと設定して、活動しております。まずは、星井町地区は事件ゼロ、割れ窓理論にのっとり、ホットスポットにはのぼり旗を、110 番の家にはステッカーを、防犯連絡所にはプレートを、防犯カメラには作動中の表示を、パトロールの服装、青パトの装着品などは見た目にきれいに整然としている姿を維持継続する上で、スターパトロール隊の機動防犯、ホットスポットパトロール、協力諸団体のながらパトロール活動を積極的に推進することによって、目標を達成する心積もりであります。



当協議会は平成 5 年に生活安全協議会と現在の団体名に名称変更いたしまして、その後、平成 16 年、富山市が自主防犯パトロール隊への支援制度を開始したことに伴い、星井町地区内の 16 町内の有志を募り、地区生活安全協議会の下部組織として、隊員 68 名のパトロール隊を編成しました。さらに、平成 18 年には青パト隊を発足させ、平成 20 年には地元小学校の統廃合により通学路等が大きく変わったことから、パトロール隊の組織改編を行い、平成 21 年には警察庁地域安全安心ステーション推進事業団

体の指定を経て、現在は防犯連絡所、女性防犯ボランティア、子ども110番の家、スターパトロール北隊、同じく南隊、同じく青色回転灯グループの6つの組織により、日夜防犯活動に取り組んでおります。

活動地域の問題点については、1つ、若者たちは郊外に移り、小さな古い家には高齢者が残るなどにより、富山市でナンバーワンの高齢化が進み、特に女性のひとり暮らしの家族が増加しておる。2番目に、古い住宅が多く、密集していたんですけども、2軒のうち1軒を取り壊しが進み、空き家や駐車場化が進んでいる。三つ目に、マンション建設が進み、環境変化が起きている。四つ目に、戦後、植えた木が大きく育ち、公園や道路の植栽も進み、大きなマンションも建ち、死角になって見えない所が増加している等があります。

特に小学校は3地区統合されて、星井町小学校がなくなって、子供の数が減少してきているわけですけども、本当に老人ばかりの町となっていて、子供みこしもできなくなって、今、公民館に保管している状況であります。

犯罪機会論と割れ窓理論の具現
～ ホットスポットとは！！ ～

- ① 犯罪が起きやすい場所
- ② 誰もが「入いやすく」誰からも「見えにくい」場所

～ 防犯環境対策 ～

- 【道路の防犯灯】
- 【公園の防犯灯】

不審者の発見はほぼ不可能に近いということで、危険な場所、ホットスポット。犯罪が起きやすい場所。誰もが入りやすく、誰からも見えにくい場所。これをホットスポットとして、最優先要点を5カ所、第2要点を3カ所、第3要点を8カ所。立正大学の小宮教授、高岡法科大学の隅田先生、社会安全ボランティア部の学生さんの協力を得て、18カ所設定しました。そして、割れ窓にならないように、毎日点検を励行に努めております。

これらの問題を解決するためには、マンパワーだけでは立ち行きません。環境対策として、いろいろな機械設備も整備が進んでいます。地区内の全ての電柱、ほぼ100パーセント、240本ぐらいの電柱には、そして7カ所の公園には防犯灯の設置が進み、パトロールの死角を補完しています。LED化してからは、この防犯灯の故障はほとんどありません。



次に、防犯カメラの設置状況であります。平成26年から、まずは通学路、主要交差点、次いで公園といったホットスポットに防犯カメラを設置しています。もともと当地区からは防犯カメラの設置を求める声が上がっていましたが、購入費用や維持費が問題となり、なかなか話がまとまりませんでした。そうしたところ、県警のレンタル制度や、県、富山市の補助の仕組みも充実してきて、この機会を逃さず、他の地域に先駆けて設置を進めたところ、現在ではスライドにありますように、星のマークの付けた所に7カ所設置が進んでおります。それ

以外にも、先ほどお祭りがあると言いました日枝神社の南側に、富山市が戦略的ということ各小学

校区に1基ずつ、さっきも付けたわけですが、そのうちの1個が日枝神社の南側に。それから、日枝神社の北側のトイレに2基、城南公園トイレに2基、星井町児童会館に2基ということで、防犯カメラの設置が進んでおります。



次に、子ども110番の家についてでございます。子ども110番の家は、平成11年から発足し、23年間活動しています。毎年見直し、170軒から180軒依頼をして、通学路、公園等、主にホットスポットの周りに配置しています。これは中央小学校経由で富山市のほうに保険をかけていただいております。今年も、169カ所に依頼しており、子供・女性・老人の緊急避難場所として、子供に声掛けを、できれば小旗・襷を掛けて見守り、子供が駆け込んできたら警察へ110番通報して、何があったか、いつ、どこで、どのような人、車かを確認し、警察官が到着するまで、一時的に子供を保護してもらうこととしております。ここから約15カ所を選定して、図にありますように、襷と旗を配布し、児童の下校時間帯に店先などで着用し、見守り活動を行うようお願いしております。

この他、マンパワーに頼らない、見せる活動も行っています。例えば、のぼり旗14本をホットスポットポイントに植立したり、私たちの活動拠点である地区センターの入り口街灯柱に『日本一安全で安心なモデル地域社会を実現しよう』の目標と、防犯組織一覧である生活安全協議会、スターパトロール隊、安全な街づくり推進協議会、子ども110番の家、警察庁地域安全安心ステーションの表示板を掲げています。また、パトロール隊員の集合場所である児童館には、パトロール隊の集合点、集合ステーションの表示を掲げています。図にあるとおりでございます。今後も、交差点の柵に横断幕を設けることや富山県の地区らしいエンブレムの導入を計画中です。このように、マンパワーをかけるだけでなく、掲示物を多く掲げることにより、この地区は防犯が進んでいる地区だと思わせる取り組みも進めています。



見ていただいている図は、今、説明した、防犯カメラ・子ども110番の家・防犯連絡所の場所を地図に落としたものです。この右側のほうは、心理的に見えにくいホットスポット。左のほうは物理的に見えにくいホットスポット。この2カ所を提示しておりますけれども、このホットスポットに防犯カメラ・防犯連絡所・子ども110番の家、それからのぼり旗等を配置して、有機的に構築するように努めております。なかなか防犯活動に人員を確保できない中、マンパワーに頼らない方法で、見守りの空白地帯を補完するように努めています。

パトロール活動の紹介

取組み状況



- ① 毎月2回：徒歩によるパトロール
(10日と20日、19:30～20:30)
南隊・北隊によるパトロール
- ② 毎日(14:30～)
下校時等の青パト8台による
パトロール ※土・日は夜間帯

パトロールの間隙をなくし、自分
たちの街は自分たちで守りたい!!

パトロール活動の紹介

～ 児童見守り活動 ～



パトロール活動の紹介です。当地区は平成 20 年に地元小学校が再編され、通学路が変更されたことや、自治体・教育委員からの補助金の打ち切りなどに伴い、下校時の見守りを行う人材がなかなか確保できないなどの問題もありました。当地区では、できるだけ効率的にパトロールを実施できるように、パトロール隊を北隊・南隊・青パト隊に整理し、北隊・南隊は、毎月 10 日、20 日の夜間に徒歩パトロールを実施する。青パト隊は、8 台の青パトで毎日巡回し、特に下校時を重視するというようにしております。

児童の見守り活動については、朝の登校時間帯には、交通指導員・小学校 PTA・教職員の方々、われわれの一部も参加しますが、中心に行っていただいています。下校時間帯については、児童の学年により下校時間がばらばらで、なかなか見守りもやりづらい面があります。

児童見守りの活動状況

取組み状況

毎月5回(14:30～15:30)

★ 第1、4、5 月曜日

スターパトロール隊・防犯連絡所・女性防犯ボランティア

★ 第2、3 月曜日

老人会

★ 1 交差点に 2 名で実施



ながらパトロールの 活動状況

各町内会等への働き掛け



- ・ウォーキングしながら
- ・散歩しながら
- ・掃除しながら



パトロール隊としては、隊員も自分の仕事を持っていたりという事情もあり、下校時は毎月 5 回、第 1、4、5 月曜日はパトロール隊が、第 2、3 月曜日は老人会が、1 交差点に 2 名で実施しているということで、毎週月曜日実施するのが現在のところ精いっぱいという事情であります。しかし、さかのぼって、星井町・五番町小学校があった平成 17 年から 19 年の 3 カ年間、小学校がなくなる前ですけども、このときは教育委員会から助成を得て、下校時こども見守り隊を編成しまして、地区センターで 40 名ぐらいの人員を指名していただいて、毎月 2 カ所、2 名から 4 名を配置してやったこともありました。しかし、現在はそれはできていません。

ただ、毎日、隊員や老人会等の固定メンバーで下校時間の見守りを行うことは、やや無理があります。当地区では、子ども 110 番の家から商店を営んでいる方など 15 カ所を選定して、襷ののぼり旗を配布し、下校時間帯に店先などで着用して、ながら見守りを行ってもらっています。町内会、諸団体の活動に合わせ、ながらパトロールに努めていただいております。また、日頃、公園で散歩している方や、夜間ジョギングしている方にも声を掛けて、襷やメモ帳を配布などして、ながら見守りを拡大するよう、幅広く呼び掛けています。

今後の展望

- ◆ **児童の下校時見守り活動への協力を働き掛け**
PTAや児童会、少年補導員など、他の組織との連携
- ◆ **ホットスポット・通学路等への防犯カメラの設置拡充**
安価なカメラを探し、町内会の費用負担を軽減
補助制度の継続を市に働き掛け
- ◆ **「子ども110の家」、**「ながらパトロール」**など
啓発グッズ等の作成・配布、実施の拡大**
“着けやすい・着けたい”と思ってもらえる啓発グッズ
などを作成し、実施者を拡大する

最後に、今後の展望についてお話しします。事件ゼロということは達成できず、刑法犯認知件数は毎年数件はあります。それも私たちのよく知らない所で事件が起きています。なかなか防犯活動を行う人材の確保が難しくなっている中、効果的な取り組みを行うには知恵を絞る必要があります。とにかく頑張りを継続するしかありません。取りあえずは、県警中央署で出している安全情報ネットへの登録を拡大していきたいと思っています。起きている事件等をいち早く把握することが、取りあえず今は一番だと思っています。今後とも、さまざまな組

織と連携して、まず一番上にあります、児童の下校時見守り活動への協力。できれば、先般言いました、3年間だけやりましたんですけども、下校時の見守り隊を編成できないかということを検討していきたいと思っています。2番目に、ホットスポット・通学路への防犯カメラや、センサーライトの設置拡充。3番目に、子ども110の家、ながらパトロールなどの促進。4番目に、啓発グッズ等の作成・配布、実施の拡大ということで、着けやすい・着けたい・使用しやすいと思ってもらえるような啓発グッズなどを作成して、実施者を拡大。できれば、先ほどもちょっと言いました、星井町の象徴を表すエンブレムの導入。私は今、5回目のベストを着ていますけども、先ほどそちらさんで言われたような、特色あるものではないですよね、これは。何か特色のある、星井町らしいエンブレムを入れたものにしたいなと思っています。

それから、パンフとか、ティッシュとか、用紙をたくさんもらって使っている。非常にありがたいんですけども、ティッシュだと取ってくれるけど、パンフレットは取ってくれないんですよね。例えば、銀行とか郵便局のATMのそばに置いてある封筒にティッシュが入っているような、特殊詐欺の広告みたいですね。小さいやつ。ああいうのを封筒に広報として印刷してもらおうとか、とにかく使わざるを得ないような物に付けていきたいなということを提案していきたいと思っています。

私たちは生活安全協議会といっているんですけども、防犯の他に青少年健全育成も1つ大きな分野であります。毎年、懇談会、研修会、あるいは合同巡視パトロールを、学校やPTA、各団体と協力しながらやっているわけですけども、星井地区において、私どもで言えば南部中学校、芝園中学校、合わせて7校区あるんですけども、その中部ブロックなどでこういった活動を開催しながら成果を上げ、『日本一安全で安心なモデル地区を実現しよう』という心掛けで、今、努力したいと考えております。

ご清聴ありがとうございました



星井町地区
生活安全協議会

終わりに、今回のフォーラムにより、他県で同様な活動をしている皆さんから、抱えている問題や好事例など、じかに話を聞き、今後の活動へのたくさんのヒントを得ていきたいと考えていますとともに、今後ともこの活動を絶やすことなく続けていきたいと思っております。以上で私の発表を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

講評

山本 力のこもった発表をどうもありがとうございました。少し私のコメントを中心にしていきたいと思いますが、活動の内容として素晴らしいと思います。実際に富山県は防犯上の指針を小宮信夫先生の監修で作られ替えられているから、急速に安全対応の考え方が広がっていて、今の中で話されていたのを基にしたホットスポットパトロールとか、われわれの理論を意識した地域防犯の考え方で、非常に素晴らしいですね。防犯カメラの設置場所も、ホットスポットをまず特定してから、そこを見守るカメラを付けている。やり方が大変素晴らしいと思っております。

1 点質問なんですけど、植栽が問題になっているというご指摘があって、これは本当に重要なポイントだと思うんですけど、植栽は管理する主体が何とかしないとイケないんですけど、ホットスポットパトロールもそうですけど、植栽が茂り過ぎていて、見えにくさをそこでつくってしまった。どんなふうにして改善するとか、何か改善の試みってありますか。

発表者 富山市は本当に、爆撃を受けてだいぶたってから植えた木が、例えばサクラの木です。私らが子供のときは、本当に植えたのは小さい木でしたが、今はもうでかくなっているわけですね。そういうことで、非常に死角になっているんです。防犯上、私たちが一番気になっているのは、城南公園があるんですけど、そこは近代美術館、富山市科学博物館等がある地域で、非常に広くて立派だと思んですけども、41号線が通っている所から全く見えないんですよ。木が塀になって、こんなに高くなっていて、完全な死角になっています。私は市の公園緑地課に、何度か高い生け垣を低くしてくれと。100メートルぐらいありますからね。そうお願いしているんですけども、いまだにやりますという感じじゃないんですね。

山本 自治体がそういった防犯に関わっているんだと、自治体の意識が本当はこれから変わっていくことが望まれるんですけど、特に自治体の緑地とか、公園の管理とか、道路とか、そういった所をやられている土木の方々ですね。あるいは、公園の方々。この辺りの意識改革をどうにか変えていかないと駄目だと思う。今、非常に重要なご指摘をいただいたと思います。

あと、いろいろ新しいことを本当に取り組んでいращやる。で、人数が少ない。私は最近、ちょっと注目しているのが、歩行者用のドライブレコーダーなんです。実際に歩行者用ドライブレコーダーって、まだ実用化されていないんですけど、自転車とかバイクのドライブレコーダーってあるんですね、充電式で。その自転車用のドライブレコーダーをうまくベストとか、あるいはリュックサックとかのここに付けられるような物があったりするんですよ。パトロールをぜひ、例えば自転車用のドライブレコーダーを回しながらやっておくと、特に下校のときとか、子供たちの時間をそろえるのは難しいですけど、もしかしたら自分が映っちゃうかもしれないという気持ちを犯罪者に持たせると、近寄らなくなりますよね。この辺のパトロールの人たちはみんなカメラを持っていて、ちゃんとカメラに映っちゃうんだというような取り組みも、もしかしたらいいかなと思って、ぜひ実験的に、多分、今、自転車用の充電式ドライブレコーダーって3000円から5000円ぐらいだと思うんですけど、お試しいただけるとさらに効果的なパトロールが実施できるんじゃないかなと思います。

どうも発表をありがとうございました。

松阪北部商工会青年部「地域見守り隊」 商工戦隊赤レンジャイ（三重県）

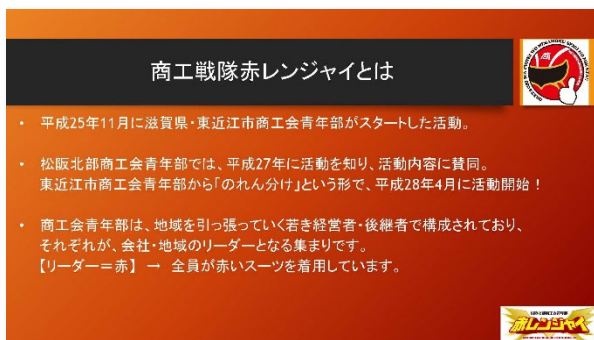
初めまして。三重県松阪北部商工会青年部、商工戦隊赤レンジャイです。よろしくお願ひします。



まずはこちらをご覧ください。

【動画】

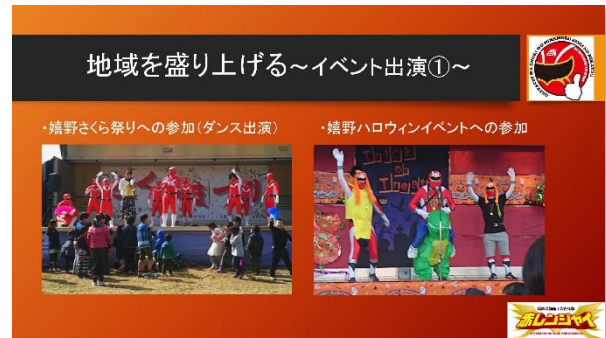
改めまして、松阪北部商工会、商工戦隊赤レンジャイです。われわれ商工戦隊赤レンジャイは発足が平成28年4月1日になります。活動人員は15名。発足時は10名から始まりました。活動目的は地域を盛り上げる。そして、地域を見守るになります。特徴としては、若い経営者や後継者がメインとなるメンバーで構成されています。



平成25年の11月に滋賀県の東近江商工会っていうのが活動している、商工戦隊赤レンジャイっていう大本の活動がありまして、その活動をうちの当時の部長が目撃っていうか、見させてもらったことがありまして、そのときに、こんな服着て活動をすると面白い人たちがいるので、自分たちも同じ活動をしたいなということで、お願いさせてもらったら、のれん分けという形で、赤レンジャイの活動を許可していただきました。赤レンジャイ、28年の4月1日から活動が始まりました。商工会の青年部の集まりということで、後継者とか若い経営者の集まりで、みんな自分とこの会社ではリーダーということがありまして、リーダーイコール、戦隊物やと赤がリーダーやもんで、商工戦隊赤レンジャイは全員、経

営者とか後継者の集まりですんで、赤い衣装をまとって、商工戦隊赤レンジャイという活動をしています。

滋賀の東近江さんで、本家商工戦隊赤レンジャイさんとも、現在も交流をしております、この左手の写真が三重県で、滋賀県の東近江さんと交流させていただいたときの写真です。右手の写真は、われわれが逆に滋賀にお邪魔して、東近江さんのお祭りでみんなで赤レンジャイをして、ちょっと、そのお祭りの盛り上げを一緒にお手伝いさせてもらったときの写真になります。



赤レンジャイの活動内容としては、地域を盛り上げる。1つ目に、イベントの出演をさせていただいているのと、2つ目に地域貢献活動をしています。そして、もう1つが地域を見守る。これは1つ目に見守り隊活動という活動と、赤レンジャイのグッズ製作をしております。

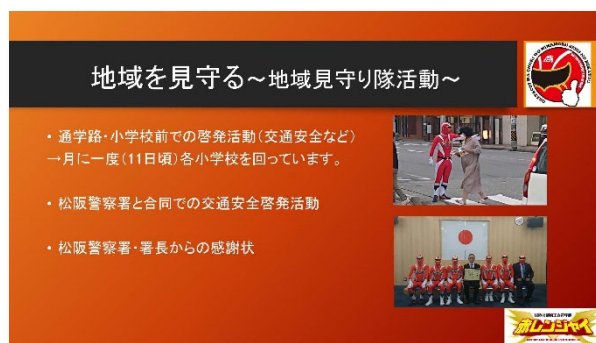
地域を盛り上げるってということで、自分の所の地域の活動に、イベント等はたまに参加させてもらんですけど、このように、左手の写真が、さくら祭りっていうお祭りで、ちょっと赤レンジャイ舞台上がって踊りを、そんなに上手じゃないですけど、踊りを披露させてもらったときの写真になります。右手の写真が、逆に今度はこっちハロウィーンなんですけど、そのときも舞台上がって、踊りはしてないんですけど、ちょっとこんなふうに仮装して、ハロウィーンをちょっと盛り上げるためにお祭りにぎやかさをさせていただきました。



こちら、商工会の地域を盛り上げるというイベントなんですけど、もともと、自分ら商工会ですので祭りもやるんですけど、その青年部として出していたバザー活動を、赤レンジャイとしてバザー、物をちょっと売る活動をさせてもらいました。右手の写真はイオンで、商工会の、これは物産展なんですけど、商工会の物産展イベントで、それを盛り上げるということで、ステージにちょっと上がって踊りをさせてもらったりして、盛り上げ活動をさせてもらっています。

こちら、地域を盛り上げる地域貢献活動。これも、もともと青年部の事業でやっていた、子供たちに七夕に笹を持っていくということで、幼稚園とか保育園を巡って笹を持っていくんですけど、それを今まで青年部員が持って行っていたのを、赤レンジャイが持って行って、子供に渡して、お子さんに、ちょっと飾り付けしてくださいねって言って、笹を渡すことをやっています。右手の写真は、小学校行って、赤レンジャイ、ちょっとこんな赤い格好をして小学校来るけど、何なん、この人らっていう疑問を

持っておられると思いますので、赤レンジャイこんなことしていますよっていうのを、子供たちの前で説明したときの写真です。



これも地域貢献活動なんですけど、赤レンジャイ、書き損じはがきを集めて、それを募金するっていう行事があったときに、ぜひとも、赤レンジャイもちょっと一緒についていうことで、赤レンジャイをあしらった募金箱、はがきを集める箱を作ってもらったんですけど、そのとき、マスコットとして、左の写真、使ってもらったときのものになります。右の写真は三重県、もうすぐ、みえ松坂マラソンってあるんですけど、ちょっと延期になっているんですけど、赤レンジャイもちょっと応援ということで、このように応援会をやっていますっていうのが右手の写真になります。

これも地域を見守る活動になるんですけど、赤レンジャイは毎月 11 日に小学校の校門とかの前に出させてもらって、子供たちの見守り活動を行っています。他にも松坂警察署さんと、時期ごとなんですけど、交通安全系のイベントとかで、ちょっと合同で一緒にやらせてもらって、交通安全の啓発をやらせてもらったことがあるんですけど、この右の上の写真がそのときにちょっと呼び掛けでさせてもらったときの写真になります。赤レンジャイ、松坂警察署さんの所長さんからも感謝状をいただいております、ちょっと活動をこういうのをしていますよっていうことで賞状をいただいたことがありまして、右の下の写真がそのときに、赤レンジャイのリーダーと一緒に、みんなで賞状をいただいたときの写真になります。



こちら、小学校の見守り活動になるんですけど、これが赤レンジャイのメインの活動になりまして、毎月 11 日の朝、赤レンジャイ、各持ち回りの小学校が八つぐらいあるんですけど、その小学校の前に立って、子供たちに朝の挨拶をして、交通安全、気を付けましょうとか、勉強頑張ってねみたいなことを言って、見守り活動をさせていただいております。

こちら、小学校の見守り活動の写真になるんですけど、こちらはちょっと趣が違うって言ったら変なんですけど、クリスマスとかハロウィーンとかに、イベントごとにもともと仮装するんやけど、さらにちょっと仮装して、子供たちにインパクトを、喜んでもらおうということで、こういう仮装をしたときの写真ですね。



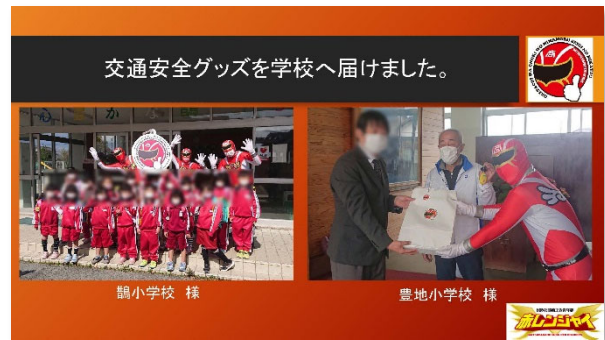
こちらも見守り活動の写真なんですけど、こんな感じで、普段は普通のこの格好で、おはようとか、いってらっしゃいみたいなことを言って活動をさせていただいております。

これもそうですね。赤レンジャイが朝、前に立って、みんな挨拶すると、おはようって言うと、向こうも、おはようございますって返してくれるんですけど、今でこそだいぶ子供らは慣れてきてくれたんですけど、最初の頃は、結構顔が見えん赤い格好やもんで、ちょっと怖がる子供もおったんですけど、今は行くと、赤レンジャイやって言ってくれるようになったもんで、それは活動をしていてすごく嬉しかったですね。



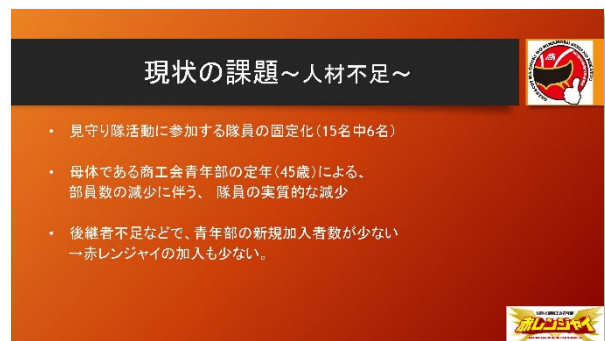
赤レンジャイの地域を見守るグッズ製作になるんですけど、こちら左手の写真が、光るんジャイっていう名称で、ちょっと自分らは呼んでいるんですけど、要は簡単な反射板付きのキーホルダーなんですけど、ランドセルとかに付けても、ヘッドライトとか当たったら反射して、車からの視認性を上げるために、子供たちに安全のために付けてもらおうということで、毎年1年生の子たちに、新入生の子たちにこれをちょっと配って、気を付けてねっていうのを配らさせていただいております。右手の写真なんですけど、こちら、赤レンジャイのステッカーとかシールなんですけど、これは単なるグッズで作らせてもって、これを子供らに配らせてもろたりもして、よかったらなんか好きな所に貼ってくださいということでお渡ししています。

地域の見守り活動のグッズ製作の一環で、この左手の写真が飛び出しくんの看板があるんですけど、これの赤レンジャイバージョンで、見守るんジャイっていう名称で呼んでいるんですけど、これを作らせてもって、自分たちの地域の小学校に配らせてもって、危ない場所とか、見通しの悪い場所にぜひともしてくださいということで学校に配るために、商工会のほうで赤レンジャイをモチーフにしてちょっと作らせてもって、配らせていただきました。赤レンジャイの、この右側の写真は松坂警察署さんとのコラボなんですけど、特殊詐欺対策用の啓発のうちわを作るということで、そういう見守り活動っていうことで、赤レンジャイをキャラクターに決めさせてもろたんですけど、そのときに、同じように見守り活動をしている地域の明和町青レンジャーさんっていう、同じような活動をしている団体さんがあって、そこと一緒にコラボさせてもろたときの写真です。



最後、これは見守りグッズなんですけど、これも商工会事業の一環で防犯ブザーを作って、子供たちに、新入生の子たちに配ろうっていう事業がありまして、そのときに、防犯ブザーやったら、見守りっていうことで、赤レンジャイよかったら、マスコットとしてここに付けてくれないかっていうふうに、ちょっとお願いして、赤レンジャイ入りの防犯ブザーを作りました。結構浸透しているキャラクターやもんで、子供ら見たら、赤レンジャイ付いとるって喜んでもらえたんでよかったです。

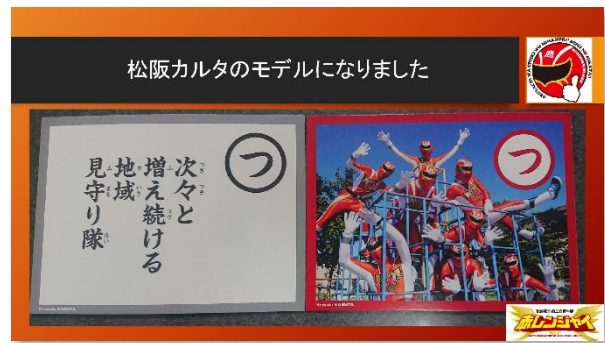
こちらは、先ほど言っていた子供らに作らせてもろたっていうことで、左手の写真は小学校に光るんジャイを持って行って、子供らに付けてもろたときに一緒に写真撮らせてもろた写真になります。右の写真は、こちら防犯ブザーの、さっき言っていた赤レンジャイ付きの防犯ブザーをちょっと学校に持って行って、時期が時期やったんで、子供らに直接は渡せないもんで、校長先生にちょっと渡して、使ってくださいってお願いしたときの写真ですね。



見守るんジャイ、先ほど言った飛び出しくんの看板なんですけど、このように、ちょっと地域の車通り子供たちの通学路とかぶる場所に設置させてもろて、こういうふうに置くことによって、車、運転してる人からすると、このなかなか赤いのはよく目立つもんでいいよっていう意見いただいているのと、子供らも、赤レンジャイおるもんで、朝、これ見かけて学校登校してきて、そのときに活動しとると、通学路におったよ、とかって言ってくれるもんで、そうやって言われると赤レンジャイとしても嬉しいですね。

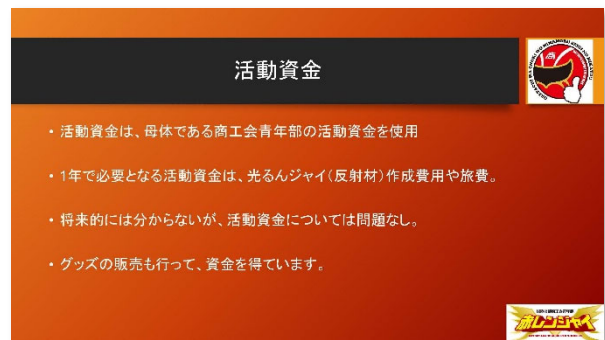
赤レンジャイの現状の課題ということになるんですけど、やはり、赤レンジャイは見守り隊活動に参加するメンバーの固定化がまず1つ目の課題になりますね。一応 15 人、赤レンジャイ、マックスでおるんですけど、実際に参加してくれているのは大体 5 人から 6 人っていう、ほぼ固定のメンバーが参加する形にはなっています。さらに赤レンジャイは母体が、先ほど言ったように商工会青年部の活動の一環としてやっておりますもんで、商工会青年部自体も定年がありまして、45 歳で定年なんです。45 歳で赤レンジャイ、要は商工会青年部卒業するってことは、赤レンジャイ自体も 45 歳になったらおらんようになりますもんで、それによって赤レンジャイ、どんどん数は減っています。それプラス、昨今経営者さんが不足しているのと、後継者としての、そういう若手のなんか商売する方が減ってきていますもんで、そういう方が減ると、青年部に入会する方が減ってしまいますもんで、それはイコール赤レン

ジャイの増員という意味では、それもマイナスになってしまいますもんで、赤レンジャイ、人員が不足していますっていうのが1つの課題になっております。



こちら、ちょっと赤レンジャイの情報発信についてなんですけど、赤レンジャイ、一応 SNS というところで、Facebook とか Instagram など赤レンジャイは情報発信をしております。一応、自分の所は、振興局が役場とかの掲示板を使って赤レンジャイの情報を発信したりもしています。松坂北部赤レンジャイで検索していただくと、赤レンジャイの出てきますもんで、よかったらフォローしてやってください。

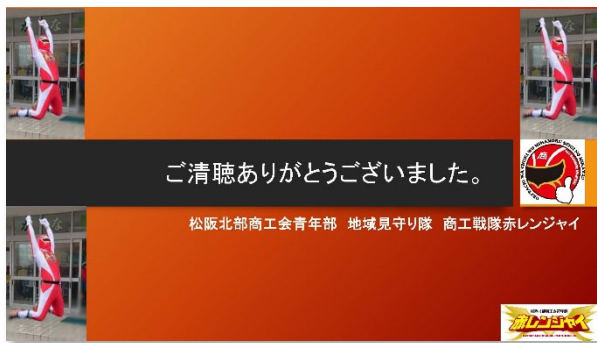
こちら、松坂カルタっていうやつになるんですけど、三重県の松坂市でちょっと地域のカルタを作っていて、赤レンジャイもモチーフにもらったカルタを1つ作ってもろて、一応こんなふうに、次々と増え続ける地域の見守り隊みたいなカルタを作っていたら、カルタの1枚になったことがあります。



こちら、情報発信なんですけど、赤レンジャイ、一応、プレスリリースって形で、今度こんな活動をするんで、よかったら取材に来てくださいっていうことで、ちょっとこちらから連絡して、何回か取材を受けたことがあります。NHKさんのテレビ取材を受けたことがあるのと、FM 三重さんとかラジオ局ですね。ラジオ局にちょっとラジオ出演で、赤レンジャイはこんな活動をしていますよっていう説明をさせてもろたこともあります。あとは、新聞社さんですね。プレスリリースで、朝こんな活動をしましたとか、キーホルダー作りましたっていうのを、新聞社さんをお願いして、それをちょっと記事載せてもろたりもしています。あとは、これは完全に地域のちょっとローカルな情報機関ですけど、一度、赤レンジャイよかったら表紙をっていうことで、表紙になったことがあります。

赤レンジャイの活動資金についてなんですけど、赤レンジャイの活動資金自体は、母体が商工会っていうことがありますので、商工会青年部の活動資金を赤レンジャイは使用しております。1年で必要になる経費としては、主にさっき紹介した光るんジャイ、新入生に配るキーホルダーを作るために使っております。あとは、赤レンジャイたまにちょっとよそに行って活動をしたりするもんで、そのときの旅費に活動資金を使用しております。将来的に活動資金がどうなるかは一応まだ未確定ではあるんですけど、現在のところ全く活動資金については困っていることはありません。先ほど紹介した光るんジャイ

とか、シールのステッカーですが、あれは子供たちに配る以外でも、商工会を窓口にして販売もしていますもんで、そんなに大しては売れてませんが、これでちょっとグッズの収益も得たりもしています。



最後になりますけど、赤レンジャイはこれからも地域を見守って、地域を盛り上げる活動を頑張っていきたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

講評

山本 ありがとうございました。最初びっくりしたんですけど、赤レンジャイの方がパソコン操作している姿が一番面白いなと思って見ておりました。地域を活性化するといいますか、そういった人を集めるようなイベントをやって、そのイベントで地域を活性化させるっていうことと、犯罪を抑止するっていうのを両立させている、させようっていう、そういうことだと思うんですね。それは街づくりっていうか、防犯街づくりで非常に大事な視点として、町が活性化すると、どうしてもそれは副産物として、いろんな犯罪が増えるんですね。町が衰退すると犯罪も減るんですよ。特に若い人たちが減ると犯罪も減って行って、今の多くの日本で犯罪が減っているのは、若い人が減っているからっていうこともあるんですね。そういった意味で言うと、町を盛り上げていくっていう活動と、犯罪を抑止するっていうのを両立でやるっていうのはすごく大事な活動だと私は思いますし、意義のある活動だというふうに思います。

また、それを商工会のほうでやってらっしゃるということなんで、地域の経済というか、そういうところの活性化ともろに結び付いているということが非常に大事なんで、これからも活動を続けていっていただきたいと思いますが、今おっしゃっていた課題以外に、見守り活動といいますか、防犯っていうか犯罪抑止っていう点で、何か悩んでらっしゃるだとか、こういった犯罪をもっと抑止したいんだっていうのを逆に感じてらっしゃるかなみたいな、その辺があったらちょっと聞きたいんですけど。

発表者 はい。質疑応答のほうはこちらのほうで対応させていただきます。特にこの活動、皆さん自営業されていて、仕事があるので、朝も出てこられる人数が少ないっていうのがあったので、そちらを優先的にはしたいところはあったんですけど、できればそういうので、夕方とかの帰りの見守り隊をしたり、夜間のそういった防犯系の見守りしかりっていうところも活動できたらいいのかなっていうところはあるんですけども、あと、仕事で1人で出てっても、逆にこれで1人で歩いとって怪しい、逆に通報されるかもっていうこともあったり。見守り以外でというと、昨今、振り込み詐欺ですかね。ああいったところで、防犯のほうを、うちわを作らせてもらったっていうのがあったので、そちらのほうで何か動けられたらなっていうのもありますし、最近ちょっと青年部として、赤レンジャイっていうことで、防犯もなんですけど、防災のほうにもちょっと何かしら使ってもらえたらいいかなっていうことで、地域の避難所とかの所に、うちわをデザインしてもらったのを、避難所こみみたいな、そういったので、もうちょっと目立つような、赤レンジャイの所に行けば何とかなるっていうような、そんな活動を増やしていきたいなとは思っております。

山本 ありがとうございます。いいですね。防災と、なんか赤レンジャイってすごく目立つので、逃げるのはこっちだって、避難経路とかそういうのの目印として使っていくっていうのは非常に面白いなと思いますね。だから、これは防犯だけで独立しているわけじゃない。町は全部いろんなものがつながっているわけですから、そんなふうにいる活動を広げていかれるのもいいと思いますし、私は、商工会から始められたっていうことなので、赤レンジャイ自身が人を集めるイベントといたしますか、そういう町なかを活性化させるっていう、そっちをもっと意識されてもいいのかなと思います。町なかを活性化させる、人を集める、人が町を見て歩く、皆さんを注目するってことは、町を見るようになるわけで、みんなが町を見るきっかけづくりとして、皆さんが活動をされてもいいのかなと思います。要は、人の目をどう町に向けるかっていうのが1つの、防犯上の非常に大事なポイントですから、その辺を考えても面白いと思うんですけど、いかがでしょうか。

発表者 そうですね。商工会っていうこともあり、商売の関係もあるので、まだちょっと、ここは赤レンジャイの店とか、赤レンジャイ応援していますとか、そういったのを踏まえて、もっといろんな他の青年部じゃない方、別の商工会、青年部以外の方の事業所にもそういったので赤レンジャイを応援している店ということで取り上げていただいて、ここはそういう店ですっていうので、赤レンジャイを広げていきたいかなとは思っております。

山本 はい。大変、アプローチとして良いと思いましたが、街づくりっていう観点と、防犯っていうことを、そこを結び付けていくっていうことが非常に大事だと思います。これからも活動を応援しておりますので、頑張ってくださいと思います。ありがとうございました。

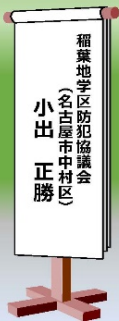
発表者 ありがとうございます。

稲葉地学区防犯協議会（愛知県）

愛知県名古屋市の中村区の稲葉地学区防犯協議会会長の小出と申します。私たちは地域の力で、犯罪抑止、犯罪のない安全安心な稲葉地学区を目標に、住民一丸となって活動しています。ただ今から、当協議会の活動内容について発表させていただきます。



地域の方で犯罪抑止！ 犯罪のない安全・安心な稲葉地学区



1 稲葉地学区防犯協議会の概要

- ・概要、活動地域
- ・設立の経緯、特長

2 稲葉地学区防犯協議会の防犯活動

- ・児童の見守り活動
- ・防犯パトロール

3 ボランティア活動を実施する中での課題

- ・団体構成員の高齢化
- ・後継者不足

4 課題解決に向けた取り組み

- ・町内対抗スポーツ大会の開催
- ・稲葉地学区地域安全大会の開催
- ・稲葉地学区敬老会の開催

1、稲葉地学区防犯協議会の概要、2、稲葉地学区防犯協議会の防犯活動、3、ボランティア活動を実施する中での課題、4、課題解決に向けた取り組み、本日はこのような流れで、活動内容を紹介させていただきたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

1 稲葉地学区防犯協議会の紹介

学区の紹介

名古屋市中村区

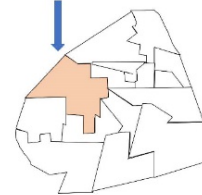
稲葉地学区

面積 約1.796平方km

世帯数 約8,062戸

人口 約16,851人

稲葉地学区



稲葉地学区連絡協議会

・21町内会（自治会）

・30団体（委員）

・協議会成員120人

防犯活動：稲葉地学区防犯協議会

稲葉地学区防犯協議会は、凶悪、悪質な犯罪が増加したことに伴い、犯罪のない安全、安心な稲葉地学区を実現するため、昭和21年4月に発足しました。発足以降、自分たちの町は自分たちで守るという防犯意識を持ち続け、防犯パトロールや子供の見守り等の地道な活動を行っています。また、この学区内には、全国でも最大規模の暴力団事務所が存在しております。皆さんがたがお聞きになれば、ああ、なるほどなと納得ができる暴力団の事務所がごぞいます。また、そういった事務所が存在しておりますので、常に危機意識を持って、PTAや女性会などとも連携し、地域ぐるみで防犯活動を実施しています。

私どもの学区を紹介いたします。名古屋市中村区の稲葉地学区は、JR 名古屋駅の西方約 3 キロメートルに位置し、面積は約 1796 平方キロメートル、世帯数は 8062 戸、人口は 1 万 6851 名でございます。稲葉地学区連絡協議会は、21 の町内会と中学校、小学校や、それぞれの PTA をはじめとして 30 の団体により構成されている規模が大きな学区でございます。学区内には、豊臣秀吉の出生地といわれる豊國神社があり、昭和 4 年に建立された、高さ 24 メートルを誇る大鳥居が参道にあることでも有名でございます。この大鳥居は一説によれば日本一といわれたこともあるそうです。豊國神社がある一帯は、現在、中村公園と呼ばれ、戦国時代の英傑ゆかりの地で、信長、秀吉の指揮下で活躍した加藤清正、福島正則らの史跡が点在する歴史ある地域でございます。

2 稲葉地学区防犯協議会の防犯活動

2 稲葉地学区防犯協議会の防犯活動

会員が実施する見守り活動

こどもの見守り活動を実施！！



- 午前 7 時 30 ～ 午前 9 時頃まで
- ・児童の登校時に会員が通学路の交差点に立つ
- ・児童に付き添って登校する

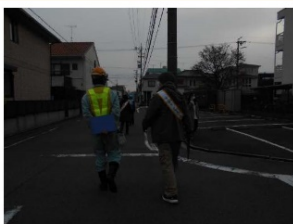
次は、稲葉地学区防犯協議会の防犯活動です。

会員が実施する見守り活動。稲葉地学区では、毎月 3 回程度、通学時間帯に児童の通行の多い 3 カ所の交差点で、各町内の防犯委員、女性会などの、約 120 名が組んで見守り活動をいたしております。また、小学校の健全育成のため、学区内の学校と連携を図り、毎月、小学校発行の学校と児童の様子が分かる小新聞を学区内全戸に回覧をして、学校の行政の情報共有を図り、見守り活動をする際の情報としています。

2 稲葉地学区防犯協議会の防犯活動

毎月の防犯パトロール

－防犯パトロールによる防犯意識の高揚－



10年前から毎月 1 回実施
パトロールコースは警察からの情報を元に自ら作成している

毎月の防犯パトロール。毎月 1 回、防犯委員を中心に学区内を 3 班に分かれて、防犯、防災を呼びかけるパトロールを 10 年間継続しております。これとは別に、年に 3 回、各町内を防犯委員と、PTA の役員で町内のパトロールと、通学路の危険箇所、空き家、風俗店、自販機コーナー等の点検を行い、その後、小学校で先生との懇談会を開き、防犯上の危険箇所の対策について検討をする活動をしています。

3 ボランティア活動を実施する 中での課題

3 稲葉地学区防犯協議会の防犯活動

■活動上の課題

◎ ボランティア活動のなり手の不足

- ・若い世代の参加が少ない
- ・人員が少なくなると活動の幅が狭くなるおそれ

◎ 活動人員の高齢化

- ・団体構成員の高齢化が進んでおり後継者が不足
- ・高齢化によりボランティア活動の時間が短くなる

次に、ボランティア活動を実施する中での課題であります。

活動上の課題は、まずボランティア活動のなり手不足が挙げられます。若い世代の参加者は少ないということがあり、人数が少なくなると、活動の幅が狭くなる恐れが出てまいっております。また、活動人員の高齢化があります。団体構成員が高齢化しており、活動の参加者が少ないときもあるため、ボランティア活動の回数や、活動時間の減少が今後の課題として挙げられます。活動を継続していくために、後継者の早期育成が必要でございます。

4 課題解決に向けた取り組み

4 稲葉地学区防犯協議会の活動

■活動上の工夫①

◎ やる気を引き出すための工夫

- ・町内対抗スポーツ大会の開催

学区内の住民の連帯意識の醸成

効果

- ①活動参加の使命感が向上
- ②親近感連帯感を育む
- ③学区内の住民の融和を図る



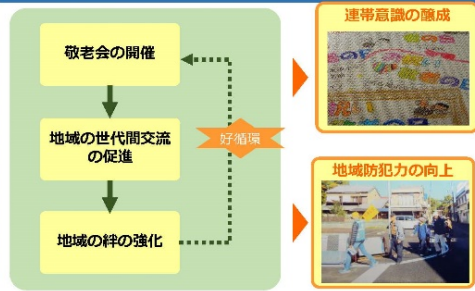
課題に向けた取り組みについて発表をいたします。

課題に向けた取り組みの方策のその1として、やる気を引き出すため、どうしたらよいかを考えました。活動を活発に継続するためには、学区内の住民の防犯に対する意識を高め、住民同士の連携意識を養成することが非常に大切であります。そのため、当協議会では、稲葉地学区の連絡協議会と協力して、町内対抗のスポーツ大会を実施しています。大会は春から秋にかけて、さまざまな種目で実施をしており、大会を通じて、学区内住民の親近感や連帯感を育み、学区内の住民の融和を図ることができています。スポーツ大会は毎年、次の種目で実施しております。1、卓球大会、2、グラウンドゴルフ大会、3、子供ソフトボール大会、4、女子ソフトボール大会、5、男子成人ソフトボール大会、6、インディアカ大会、7、レクバレーボール大会、以上の7種目を毎回、200名ぐらいの参加者を得て、実施をしております。

4 稲葉地学区防犯協議会の活動

■活動上の工夫②

敬老会の開催でモチベーションの向上を図る



4 稲葉地学区防犯協議会の活動

■活動上の工夫③

◎地域安全大会の開催

・稲葉地学区地域安全大会の開催

学区民の防犯意識の醸成のため警察官からの犯罪情勢、暴力団情勢等の講話を受ける。

防犯意識の向上



- ・犯罪や暴力団に関する知識を習得
- ・講話等で得た知識を地域に還元する
- ・大会参加者のスローガン唱和による防犯意識の高揚

方策その2として、モチベーションの向上を図ることです。学区住民に防犯意識を高く持ってもらうため、敬老会などの会合で警察官を講師に招いて、防犯に関する勉強会を実施しています。また、出席者には児童が書いた励ましの絵手紙や年賀状を届けるなど、世代間の交流を図り、活動のモチベーションを上げる工夫をしております。

方策その3。稲葉地学区地域安全大会の開催です。毎年、秋の安全なまちづくり県民運動の実施期間中に、犯罪のない安全安心な稲葉地学区を実現するため、警察の方や行政のご協力の下に、地域安全大会を実施しております。この大会は昭和62年より始めて、昨年には実に35回目を迎えた歴史ある大会でございます。毎年、参加希望者は多く、人員を絞らなければならないほどで、コロナ以前は毎年350名以上の参加者がございまして、地域住民の防犯意識が高いことが分かります。令和3年に実施した大会は、中村警察署長、中村区長をはじめ、来賓としてたくさんの方々に来ていただくことができました。出席者全員による県民運動防犯スローガンの唱和をしたり、愛知県警本部暴力団対策室長による暴排講話や、防犯活動専門チームのぞみによる特殊詐欺被害防止の寸劇、中村警察署演歌ポリスの歌、警察音楽隊による演奏などがありまして、この大会に参加した多くの学区民は、犯罪や暴力団に関する知識を理解したことと思います。そして、自分たちが住む地域は自分自身と周囲の人々が協力し合って、しっかりと守っていかなければならないことを理解したと思います。

4 稲葉地学区防犯協議会の活動

ハード面での防犯対策

街頭防犯カメラ



街路灯をLED街路灯に変更



現在は学区内のほぼ全ての街路灯をLED街路灯に変更

4 稲葉地学区防犯協議会のこれから

【活動の成果①】75年の長期活動により活動が定着

- ・75年の長きにわたる活動で地域に活動が浸透、定着




稲葉地学区のハード面での防犯対策としては、中村区の連合防犯協議会、中村警察署と協力して、防犯カメラの設置を推進をしております。また、区役所には地域住民の声を届け、必要な所に街路灯を設置し、またLED街路灯に変更するなど、夜間や人気の少ない時間帯でも、明るく人の目を補える、いわゆる町のハード面の防犯対策も積極に進めておりまして、現在、ほとんどの町内の街路灯はLED化しております。

稲葉地学区防犯協議会の活動の成果として、昭和 21 年発足以降、75 年という長期にわたる防犯パトロールや、子供の見守り等、地道な活動が浸透、定着いたしております。これも学校を含めた各関係機関と連携した有機的な活動が途切れることなく住民に受け継がれてきたことが、私たちの活動を支えてきました。

4 稲葉地学区防犯協議会のこれから

【活動の成果②】 地域全体の防犯意識が向上

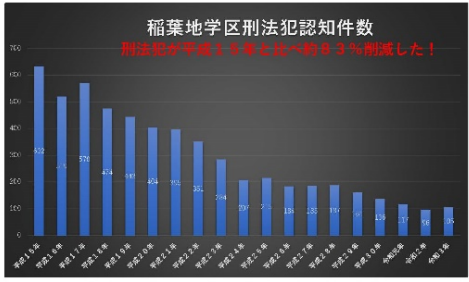


- ・ 児童、地域住民とコミュニケーションを取ることで、防犯意識を醸成
- ・ 防犯研修会により防犯の知識を深め、それを実践している

4 稲葉地学区防犯協議会のこれから

【活動の成果③】 活動地区の犯罪発生件数が大幅に減少

【稲葉地学区における犯罪発生状況の推移】



年度	認知件数
平成15年	600
平成16年	570
平成17年	444
平成18年	419
平成19年	404
平成20年	352
平成21年	304
平成22年	297
平成23年	183
平成24年	155
平成25年	117
平成26年	113
平成27年	100
平成28年	90
平成29年	80
平成30年	70

活動、その成果、その2として、毎月学区の連絡協議会で、警察から受けた講話の内容や町の防犯診断の診断結果、学区内の犯罪情勢を住民にフィードバックする防犯研修会を実施しています。研修会により、自分たちが住む地域は、自分自身と周囲の人々が協力し合って、しっかりと守っていかねばいけないという自主防犯意識が形成されております。

このグラフを見ていただいで分かるように、稲葉地学区での防犯発生件数は大幅に減少しております。ピークでありました平成 15 年には年間 600 件を超える刑法犯罪が発生しましたが、近年では、およそ年間 100 件程度まで減少をいたしました。割合にして 83 パーセントの減少でございます。住民 1 人 1 人の防犯に対する連帯意識を長年にわたり育てるとともに、防犯モデル地域を目指して、さまざまな努力をしてきた結果だと思っております。



以上で当協議会の発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

講評

山本 はい、ありがとうございました。何しろ 75 年にわたって活動を続けてらっしゃる非常に伝統のある団体の皆さんで、本当にずっと、そうやって息長く続けてこられているっていうこと、それ自体が素晴らしいというふうに思います。あと、私は北九州の大学にいたので分かるんですけども、暴力団追放の問題と、この地域防犯っていうのは両輪でして、暴力団の追放っていうのはもちろん大事なんですけど、それと同時に地域の守りを固めるといいますか、地域のコミュニティーをしっかりとつくって、地域の防犯意識を高めるっていう、多分これ、両方大事なんですよね。そこの両方を進めていってらっしゃ

るっていうところが非常にポイントかなというふうに思っています。それから、警察との連携がかなり緊密なように思います。月ごとに警察から防犯研修会等をやっているということのようですが、これもかなり、他の団体と比べると目立って警察との連携が強いように思われるんですけど、これはずっとそういうことやってらっしゃるんですか。

発表者 1 はい。警察署のほうの協力も非常にありまして。今年の3月に会長を代わられました。二十数年にわたりまして当稲葉地学区の連絡協議会の会長を務めていただいて、防犯協議会を大変支えてくれておりましたヤナセ前会長と回答を代わります。

発表者 2 ヤナセでございます。今の話ですが、毎月の定例会は警察署のほうから出向いていただきまして、定例会の中で、開会の冒頭にこういうふうに先ほどお話がありました状況等々のお話と、また皆さんのご意見を聞いていただくという機会を毎月つくっていただいておりますので、そのことを研究会というような形で発表をさせていただきました。

山本 そうですか。それは非常に重要な取り組みだと思います。毎月っていうことがなかなか、そんなにできてない所も多いと思うんですけど、そのときに、警察からはどれくらいの情報を提供してもらっているんですか。例えば先月の刑法犯認知件数だとか、その内訳だとか、あるいはもうちょっと詳しくどういった状況で犯罪が起こっているとか、どの程度の情報提供を受けていらっしゃいますか。

発表者 2 犯罪の状況、それから交通事故の状況、それに山口組の現在の親分の出身母体の弘道会の事務所がある学区もございますので、それぞれと、あとは他の点もいろいろお話しいただいておるところでございます。

山本 なるほど。ありがとうございました。こういう地域防犯を支える1つの重要なポイントってというのは、警察からの綿密なっていうか、丁寧な情報提供だと思うんですね。それがあからこそ、地域のボランティアはそのときに必要な防犯活動に乗り出せるっていうことがあって、今月はこういうことが増えているとか、どの辺でどういうことが起きているとか、その辺の実態をしっかりと、そうやって警察から情報を受ける、警察もそうやって情報を提供するっていう、その結びつきがあるっていうことが非常に大事だと思いますので、そのような活動を毎月されているっていうのは、全国の防犯ボランティア、および防犯ボランティアと協力関係にある地元の警察、あるいは交番との関係っていうのはすごく、そこ大事なポイントだというふうに思いますので、今後もできるだけ明確な情報を、できるだけ詳しい情報をちゃんと分析して、エビデンスというか事実を受けて、その上で地域防犯をやっていくということで、その辺がずっと続いていると、次の世代の人たちも、今、何かしなければいけないということが分かってくるので、新しい世代も入ってくる時に戸惑わなくて済む要因の1つかなというふうに思っています。

すごく、このコミュニティーを活性化しているっていうか、そこを割と重要視されていると思うんですけども、その辺、今どうですか。その地域のコミュニティー、地域住民の連帯感っていうのは、最近はどうな感じでしょうか。コロナがあって、なかなかその辺が、協力が難しくなっているっていうのが1つあるんじゃないかと思うんですけども、どんな感じでしょうか。この2年間ぐらいの、コロナ

の中での地域住民の連帯感っていうものは。その中でどんなふうやってこられたかっていうのが、もう少しあればぜひ。

発表者 2 今、学区は戦後、新しい住宅地というような形で、それこそ共同の木造のアパートがたくさんできたり、それから多世帯住宅がたくさんできたんですが、ちょうどそれが建て替えの時期に来ておまして、アパートがマンション化される所もありますし、分譲住宅の1つは、今のように土地付きの分譲住宅でなくて、土地は住民さんが持ったまま、建物だけの住宅というのがたくさんありますし、そういう所も建て替えの時期がありまして、そういうような状況になって、大きく様変わりになっております。もう1つは、たくさん住宅ができたときに、狭い住宅ですので、二世帯住宅で住むというような状況ではなくて、若い人がみんな出ちゃって、年寄りだけ残ったという住宅もたくさんありまして、ちょうどそういう住む人の状況も変わってきて、1つは町内会に入らないと、こういう人がどんどん増えちゃって、それを今は少しでも、たくさんの人に町内会に入ってもらいたく。町内会に入ってもらいたくということは、今、先生のご指摘にある、コミュニケーションをとる機会が増えてくるわけですが、それが希薄になっているという部分、ご指摘のとおりの部分があります。

山本 そうですね。今、地域で世代交代が起きている。家を建て直して若い人が入ってくるっていう、それ自体はその地域にとってすごくいいことなんですけど、その人たちが地域コミュニティーにどう参加してくるかっていうのは、これは本当に大事だろうと思うんですね。いろいろと工夫されてると思うんですけど、これも地域の防犯にとっては大事な要因だと思います。町内会の義務をなるべく減らしていくとか、いろいろ入りやすく、町内会に若い人が入りやすくしていくとか、あるいは若い人同士でのつながりをつくっていくとか、いろいろなやり方があると思うんですけど、この地域の防犯体制とか、日本の防犯体制って、町内会ってすごく本当は私も大事だと思います。そこを、今、本当に単に世代交代ってだけじゃなくて、家自体が建て替わっていくっていう所が非常に多くて、町の風景がどんどん変わっていく中で、新しい人たちの、またコミュニティーを入れていくっていうところが1つのポイントかと思いますので、大変でしょうけど、ぜひそこは、またいろいろ工夫といいますか、実践をされていくことも、この防犯にとって大事なかなというふうに思っております。

発表者 2 ですから、先生のご指摘のとおり、小学校、中学校、先生もそうですし、PTA の人も学区の行事、先ほど報告をしました年2回のパトロールのときに、清掃活動をやる時もありますし、併せてやる時もあります。それにも、PTA の人も、それから土曜日で学校休みのときの場合は子供さんにも参加してもらって、地域の中へ入っていただける機会をつくって、おっしゃるとおりの、一緒になって頑張ってもらえるような努力をさせていただいておるところです。

山本 そうですね。この点、すごく大事だと思いますんで、これからも頑張ってもらえればと思います。どうもありがとうございました。

発表者 ありがとうございました。